

事務事業マネージメントシート

作成日 平成31年 04月 22日

事務事業名	市民の科学体験教室開催事業			担当	教育委員会 科学教育センター			
政策名	B 学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり			増補版施策名				
施策名	1 生涯学習の推進			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業				
関連個別計画				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ			
法令根拠	真岡市科学教育センターの設置、管理及び使用条例				<input type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 平成 5 年度～)			
予算科目	1. 一般会計	10. 教育費	4. 社会教育費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)			
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・科学教育センターは実験室3室、プラネタリウム、各種実験観察器具を備え、市内の小学3年から中学3年までの全員に、学校教育の一環として理科の観察実験、天体の学習指導を中心的に実施する施設である。 ・市民の科学体験教室は、これらの施設について、学校利用がない夏休み中の7月下旬から8月上旬にかけて、通常は市民に公開していない実験室、大型観察装置を無料で開放し、センター内を自由に見学できるようにしている。実験装置を実際に操作したり、簡単なものづくりに挑戦してもらうなど、生涯学習の一環として市民の科学に対する興味関心を高めるための事業を実施している。 							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動）			⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
			名称	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)
30年度実績			ア 開催日数	日	13	13	12	12	12
			イ 一般参加者数	人	1,814	1,899	2,013	2,223	2,300
			ウ 団体参加者数	人	375	404	245	346	350
			エ 市広報による広報回数	回	3	3	3	3	3
			オ						
31年度計画									

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか? ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・市民の科学体験教室は、科学教育センターを利用した生涯学習の事業である。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか? ・税金を投入して達成する目的か?	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・科学教育センターを活用しての、市民に対する生涯学習事業である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか? ・意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある ・全市民を対象にしており、科学教育センターの概要を知ってもらう目的および生涯学習の一環として自然科学に対する興味・関心を高めるものであり、適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか? ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか? ・何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 実施可能な定員数の参加者がある。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない ・真岡市独自の施設であり、近隣に同様の施設がないため、市民の生涯学習のきっかけとなる機会が減少する。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか?	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか?	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある ・最小限の経費である。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある ・最少の人数で運営している。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか? ・受益者負担が公正・公平になっているか?	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・生涯学習の施設として、全市民を対象として公開している。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画)	<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し (<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 繼続	(3) 改革・改善による期待成果
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か?それをどう克服していくか?		

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合	<input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果
(2) 2次評価者としての評価結果	①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性	<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	
(4) その他2次評価会議で指摘された事項		